

斜里地区

水産流通基盤整備事業【事前評価】

斜里地区の概要

- 斜里地区は北海道東部の知床半島基部に位置し、その気候風土を活用した第1次産業である農林水産業及びその生産物を原材料とした食品加工業が盛んである。また、世界自然遺産の知床半島の玄関口として知られ、原生的な自然景観と豊かな生態系を生かした観光産業も盛んである。
- 当地区の令和5年港勢調査ではサケ・マスの水揚げが、数量で当地区全体の96%、金額は97%を占める重要なものとなっており、当地区を含めた斜里町は全国のサケ・マスの漁獲量のうち約20%を占める屈指の多獲地域となっている。斜里地区には産地市場・水産加工場が立地し、周辺住民の多くが関連産業に従事しているなど、地域経済や雇用を支える根幹産業として重要な役割を果たしている。



昭和27年10月6日
第2種漁港指定



さけ定置網漁業の陸揚げ状況

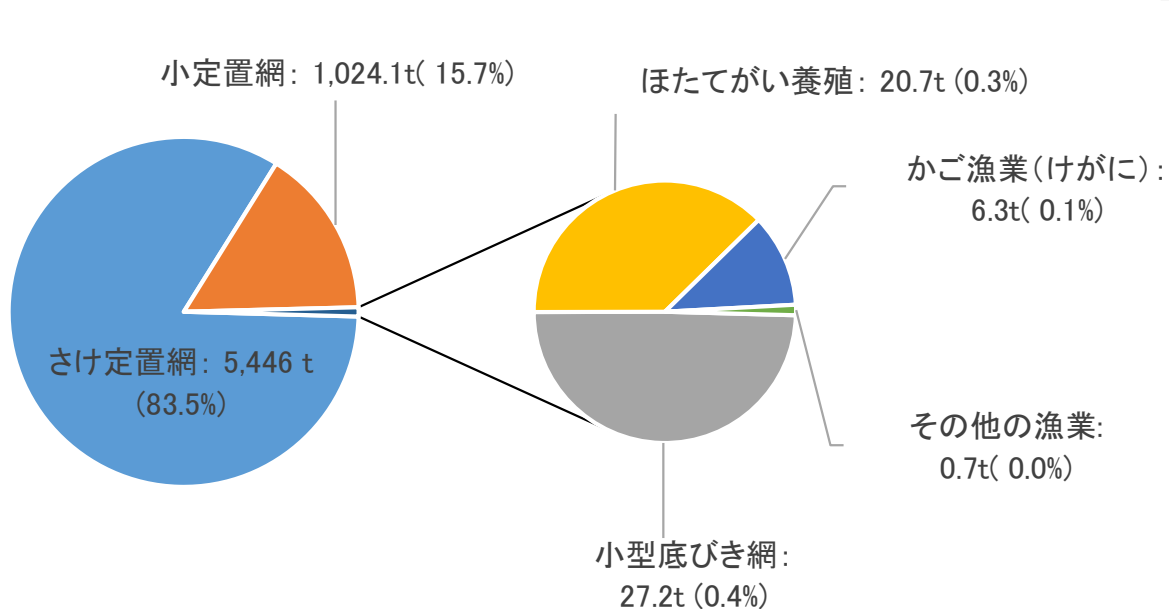
斜里漁港の港勢

【令和5年港勢】

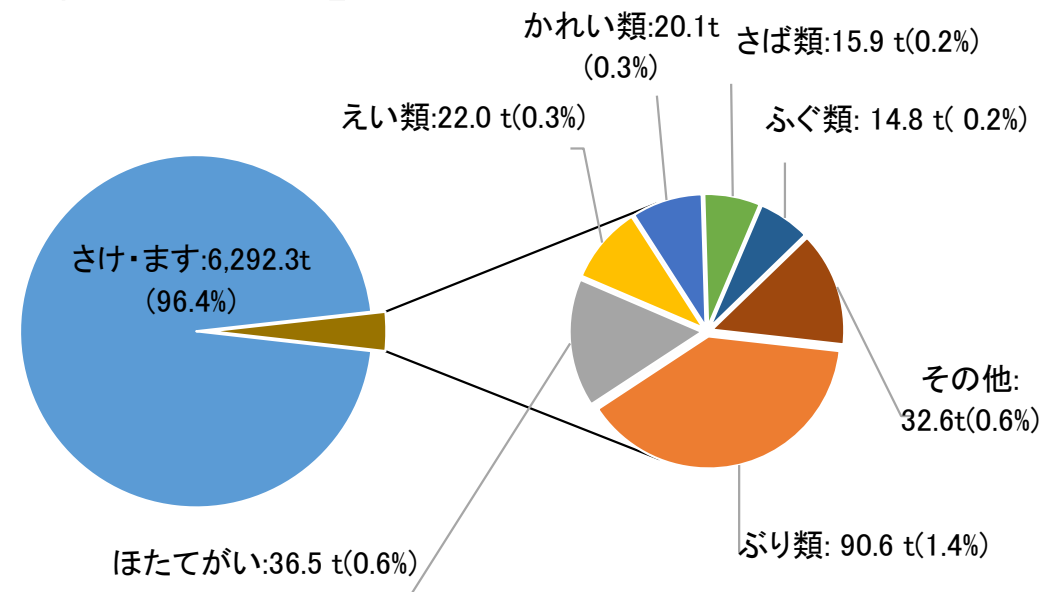
登録漁船隻数	84隻
利用漁船隻数	55隻
属地陸揚量	6,524トン
属地陸揚金額	3,608百万円
主な漁業種類	さけ定置網、小定置網、小型底びき網
主な魚種	サケ、マス、ブリ、ホタテガイ

令和5年 属地陸揚量の内訳（斜里漁港）

【漁業別 陸揚量】



【魚種別 陸揚量】



斜里漁港の役割

○網走東部第一圏域の流通拠点漁港

- 斜里漁港は本圏域のサケ・マスの約46%を陸揚げし、漁港近隣の加工場で輸出対応をするなど、**輸出拠点漁港**としての役割を担っている。

○サケをはじめとした地域水産物の流通・加工基地

- 斜里漁港は、さけ・ます定置網漁業、たこ箱漁業等を営む地域**沿岸漁業の拠点**となっており、屋根付き岸壁で衛生的な陸揚げがされている。
- サケの船上活〆や漁港内のタコの畜養施設を活用した、活だこの出荷など、品質向上・消費拡大を図っており、**地域水産物の流通・加工基地**としても重要な役割を担っている。

サケの陸揚げ状況



屋根付き岸壁での陸揚げ

品質向上に向けた取組み



タコの畜養施設

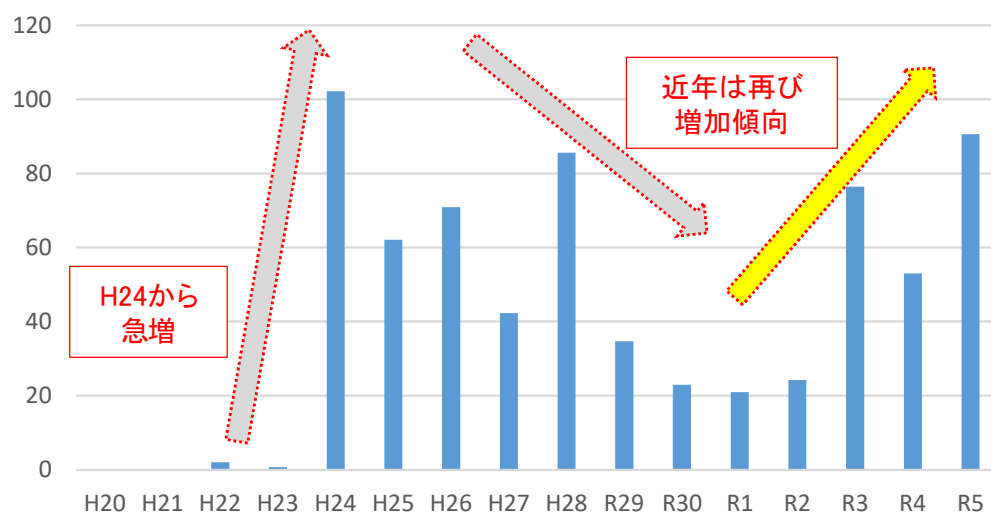


サケの船上活〆

斜里漁港を取り巻く情勢（海洋環境の変化）

- ・ 斜里地区の沖合では海水温上昇の影響で平成24年からブリの漁獲量が急増しており、令和元年には一度落ち着いたものの、近年は再び増加傾向にある。
- ・ 斜里漁港で陸揚げされたブリは選別後に、重量別の4規格に分けてセリにかけられる。この際、手作業で一尾ずつ計量を行うため、1隻あたりの水揚げに要する作業時間が長くなっており、屋根付き岸壁の陸揚げ待ちが発生するなど非効率な作業状況となっている。

斜里漁港におけるブリの漁獲量推移(単位:t)



ブリの陸揚げ状況



陸揚げされたブリ



計量状況

斜里漁港の課題①【水産物の生産性向上】

1) 混獲魚種の増加による陸揚げ待ちについて

【課題】 斜里漁港では、さけ定置網漁業に対応した屋根付き岸壁を整備し、衛生管理の向上を図ってきたが、近年、**混獲魚種(ブリ)**の増加に伴い**選別作業に要する時間が増大**している。このため、**陸揚げが可能な屋根付き岸壁が不足**しており、**陸揚げ作業時間が長期化**し、**漁船の陸揚げ待ち**が発生するなど、**漁業活動の非効率化**が生じている。

【対策】

屋根付き岸壁を増設することにより、陸揚げ可能な岸壁延長を確保し、漁船の陸揚げ待ち時間の短縮を図る。



混獲魚種のブリは一尾ずつ計量する必要があるため、荷さばき作業に時間を要している。



陸揚げ作業時間の長期化により陸揚げ待ち漁船が発生している。



乗組員の待機状況

斜里漁港の課題②【漁業就業環境の向上】

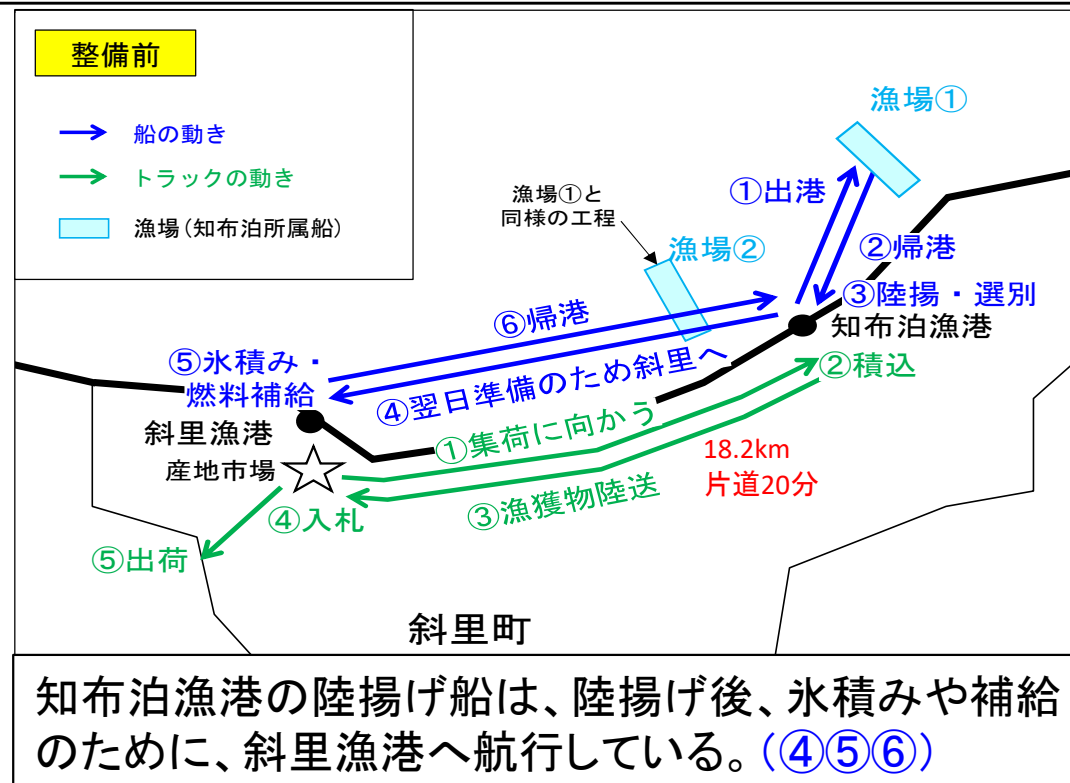
2) 非効率な作業について

【課題】

斜里漁港および知布泊漁港においてさけ定置網漁業の操業および陸揚げを行っている。このうち、**知布泊漁港で陸揚げされた漁獲物**については、**産地市場が立地する斜里漁港まで陸送**しており、**輸送作業に伴う労力や時間、経費の負担が生じている**。また、**氷積込や燃料補給等の準備作業**についても、その都度、**斜里漁港へ漁船を移動**させる必要があり、**漁業活動の非効率化が課題**となっている。

【対策】

屋根付き岸壁を増設することにより、知布泊漁港で陸揚げを行っている漁船についても斜里漁港での陸揚げが可能となり、漁獲物の陸送作業が解消されるとともに、氷積込や燃料補給等に係る漁船移動が不要となり、作業効率の向上および経費削減が図られる。



斜里漁港の課題③ 【漁獲物の付加価値向上】

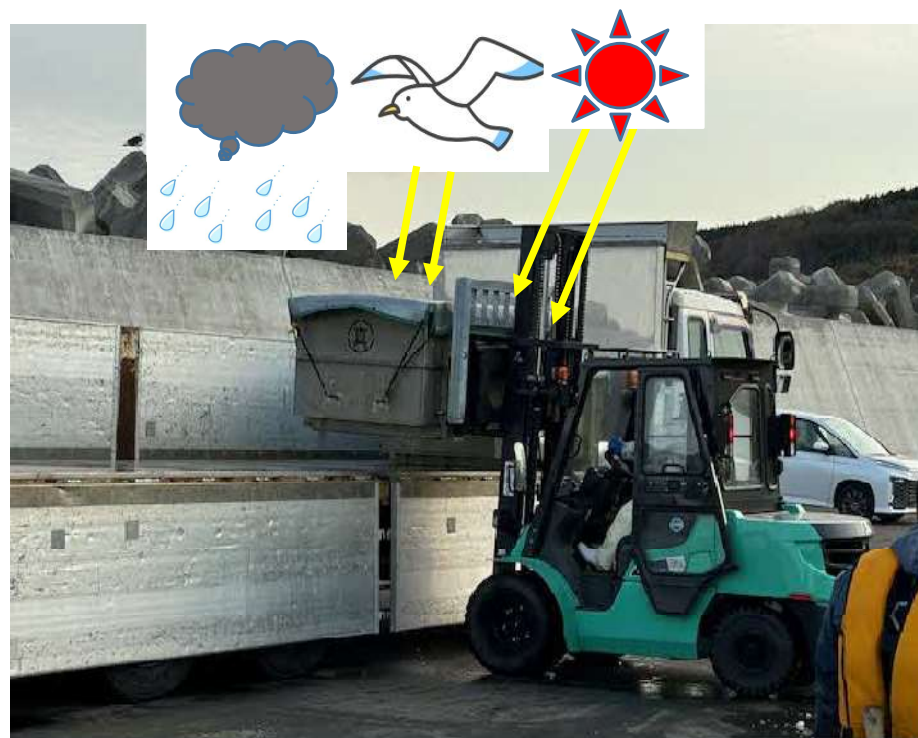
3) 衛生環境の不足について

【課題】

さけ定置網漁業において、同圏域の知布泊漁港では屋根付き岸壁が未整備のため、野天での陸揚げを行っている。

【対策】

屋根付き岸壁を整備することにより、知布泊漁港で陸揚げする漁船についても、衛生管理が確保された斜里漁港の屋根施設下での陸揚げが可能となる。



斜里漁港の課題④【非常時、緊急時の対処】

4) 防災対策の不足について

【課題】

耐震性能を強化した岸壁等の**防災対策施設が整備されていない**ため、災害発生時には当該漁港の**係留施設が倒壊**するおそれがある。この場合、漁船の係留が不可能となり、**漁業活動が全面的に停止**するなど、地域漁業に重大な影響を及ぼすことが懸念される。

【対策】

耐震化岸壁を整備することにより、災害発生時における係留施設の倒壊を回避し、発災後においても速やかな漁業活動の再開が可能となる。また、施設の倒壊が防止されることで、災害時に想定される大規模な施設復旧費の発生を抑制し、被害の軽減が図られる。



耐震性能の強化をしていないため、地震や津波が起きた際には被害を受けるおそれがある。



(参考:被害イメージ)
東日本大震災における散布漁港被害状況

係留施設が倒壊した場合には、漁業活動の継続が困難となり、全面的な停止に至る。

事業の概要(斜里漁港)



事業の概要

着工年度	令和8年度	完了年度	令和17年度
施設名 (斜里地区)	整備規模		事業費
①外防波堤（補修）	L=150m		300百万円
②-3.5m泊地	A=4,420m ²		100百万円
③-3.5m岸壁	L=85m		1,600百万円
④-3.5m岸壁（改良）	L=39m		200百万円
⑤-3.5m岸壁（補修）	L=150m		100百万円
⑥用地（改良）	A=3,200m ²		100百万円
⑦荷さばき所	N=1式(L=20m)		600百万円

事業費合計

3,000百万円

斜里漁港の主な便益

○効果内容

効果項目		効果内容	年間便益額 (千円/年)
①	水産物生産コストの削減効果	用地舗装による定置網の修理作業の効率化	8,609
		屋根付き岸壁整備による漁船の陸揚げ待ち時間の短縮	6,233
		屋根付き岸壁整備による出荷作業時間の短縮	458
		屋根付き岸壁整備による移動時間の短縮	4,127
		泊地増深による漁船耐用年数の延長	27,347
		荷さばき所整備による荷さばき作業時間の短縮	2,925
②	水産物付加価値の効果	衛生管理対策による漁獲物の単価下落防止効果(タコ、小定置)	16,752
		衛生管理対策による漁獲物の単価下落防止効果(サケ) 【知布泊漁港の陸揚げ対象】	54,943
③	漁業就業者の労働環境改善効果	用地舗装による網補修作業環境の改善	3,383
		-3.5m岸壁改良による取水口メンテナンス作業環境の改善	9
④	生命・財産保全・防御効果	耐震性能を強化した岸壁整備による漁業所得の維持及び災害復旧費の回避	19,283

1) 水産物生産コストの削減効果①

○屋根付き岸壁整備による陸揚げ待ち時間の短縮

斜里漁港では、前計画において、さけ定置網漁業に対応した屋根付き岸壁を整備し、衛生管理の向上を図っているところである。しかし、近年、**混獲魚種の増加(ブリ)**に伴う選別時間の増により、**陸揚げ作業時間が長期化**することで陸揚げが可能な屋根付き岸壁が不足しており、**漁船の陸揚げ待ちが発生**するなど、非効率な漁業活動を強いられている。屋根付き岸壁の増設により、一度に陸揚げ可能なさけ定置船が**2隻から4隻へ増加**し、**陸揚げ待ち時間の短縮**が図られる。

(1) (整備前の対象隻数-整備後の対象隻数) × 操業日数 × 作業人数 × 待ち時間 × 労務単価

(2) (整備前の対象隻数-整備後の対象隻数) × 操業日数 × 待ち時間 × 漁船馬力 × 漁船燃費

/燃料重量 × 燃料単価

年間便益額

=6,233千円/年

整備前

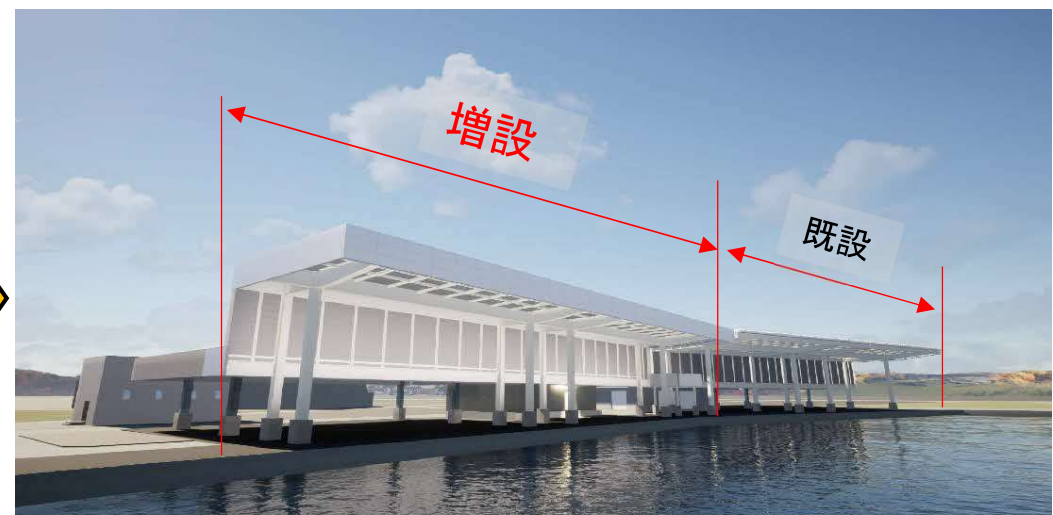


屋根付き岸壁での陸揚げ

待機船

屋根付き岸壁の不足により、陸揚げ待ちが発生しており、非効率な作業状況となっている。

整備後



屋根付き岸壁の増設により、漁船の陸揚げ待ち時間が解消され、漁業活動の効率化が図られる。

1) 水産物生産コストの削減効果②

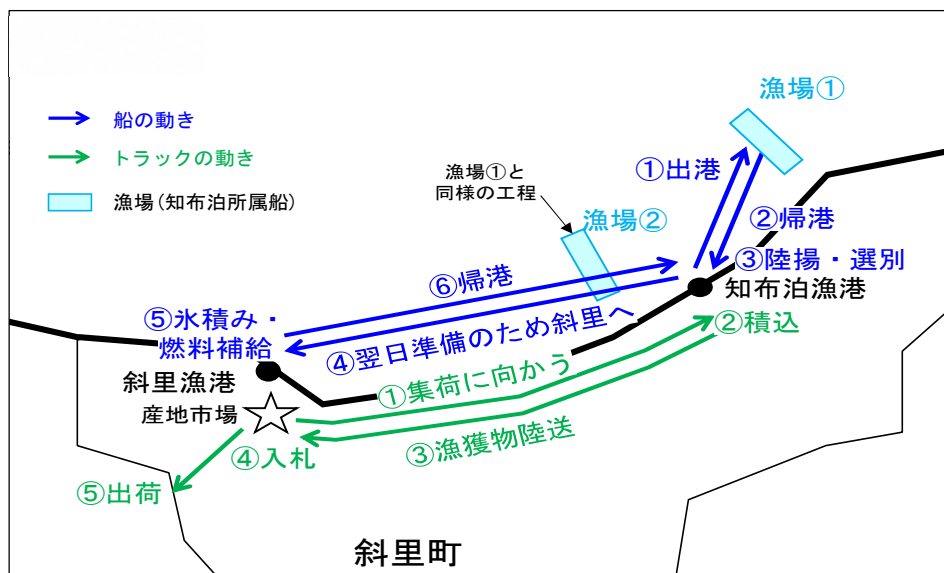
○屋根付き岸壁整備による移動時間の短縮

現在、斜里町内では斜里漁港のほか、近隣の知布泊漁港においてもさけ定置網の操業・陸揚げを実施しており、知布泊漁港で陸揚げされた漁獲物は、産地市場のある斜里漁港へ陸送をしている。斜里漁港での屋根付き岸壁増設により、知布泊漁港で陸揚げを行っている3隻についても斜里漁港での陸揚げが可能となり、漁獲物の陸送作業が解消されるとともに、その都度、斜里漁港で行っていた準備作業(氷積込・燃料補給等)に係る漁船の移動経費も削減される。

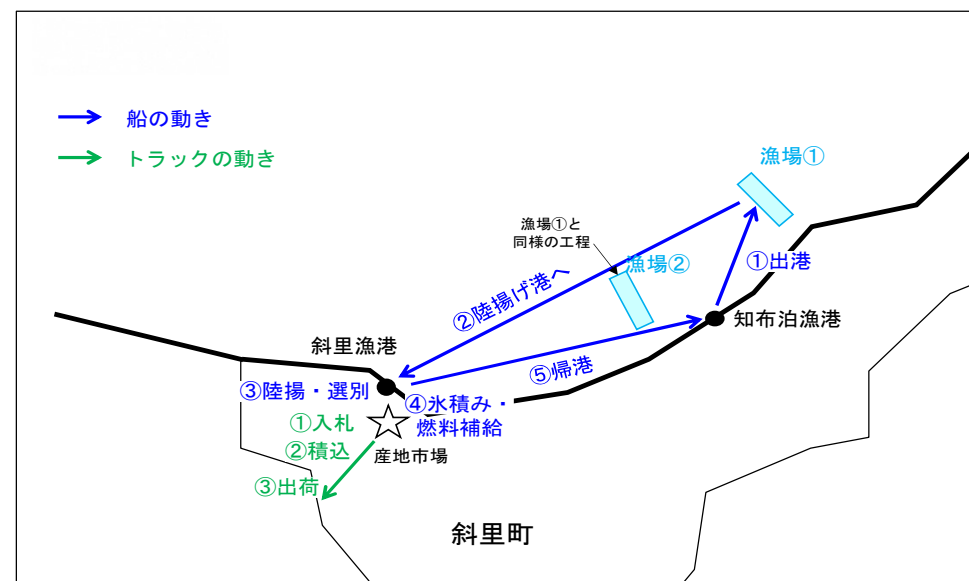
- (1) 対象隻数 × 操業日数 × (整備前の移動時間 - 整備後の移動時間) × 作業人数 × 労務単価
- (2) 対象隻数 × 操業日数 × (整備前の移動時間 - 整備後の移動時間) × 漁船馬力 × 漁船燃費 / 燃料重量 × 燃料単価
- (3) 対象隻数 × 対象台数 × 操業日数 × (整備前の移動時間 - 整備後の移動時間) × 作業人数 × 労務単価
- (4) 対象隻数 × 対象台数 × 操業日数 × (整備前の移動距離 - 整備後の移動距離) × 走行経費

年間便益額
= 4,127千円/年

整備前



整備後



2) 漁獲物付加価値化の効果

○衛生管理対策による漁獲物の単価下落防止【知布泊漁港の陸揚げ対象】

さけ定置網漁業において、同圏域の知布泊漁港では野天で陸揚げを行っているほか、陸揚げ後は産地市場がある斜里漁港に陸送しており、非効率な漁業活動を余儀なくされている。屋根付き岸壁の整備により、知布泊漁港で操業する漁船についても衛生管理が図られた屋根施設下での陸揚げが可能となり、**単価下落防止**が図られる。

年間便益額

=54,943千円/年

知布泊漁港での陸揚げ金額(陸送分) × 魚価の安定化率

整備前



鳥糞や雨水、直射日光により、漁獲物の鮮度低下が懸念されている。

整備後



屋根施設下での衛生的な陸揚げが可能となり、漁獲物の単価下落防止が図られる。

4) 生命・財産保全・防衛効果

○岸壁の耐震化による漁業所得の維持及び災害復旧費の回避

整備前は、耐震性能を強化した岸壁等の防災対策施設が整備されていないため、災害発生時には当該漁港における係留施設等が倒壊し、全ての漁業活動が不可能となる。

耐震化岸壁等の防災対策施設の整備により、当該漁港の係留施設等の倒壊が回避され、発災後、速やかに漁業活動の再開が可能となる。また、災害による係留施設等の倒壊が回避されることから、被災した場合に想定される**施設復旧費が回避**される。

(休業損失の回避額＋災害復旧費の回避額) × 災害発生確率

年間便益額
=19,283千円/年

整備前



整備後



事業の投資効果

本事業により期待される主要な効果

○定量的な効果

便益	水産物生産コストの削減効果	8.96億円
	水産物付加価値化の効果	12.66億円
	漁業就労者の労働環境改善効果	0.67億円
	生命・財産保全・防御効果	3.96億円
	合計(総便益額)	26.25億円

○定性的な効果

- 就労環境の改善や災害対策に伴い、安全・快適で効率的な漁業活動が可能となり、漁業後継者の確保が図られる。
- 魚価の安定化に伴い、漁業経営の安定化が図られる。

事業の投資効果

費用対効果分析結果

事業費（億円）	30億円
整備期間	令和8年度～令和17年度
便益（億円） （年単純合計）	1.44億円
総費用（C） （億円）	C=23.06億円
総便益（B） （億円）	B=26.25億円
費用便益比 （B/C）	B/C=1.14